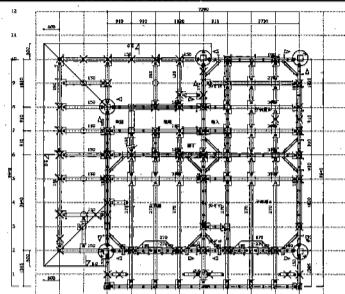


# 構造に配慮した意匠設計を提倡

ネットイーグル



勝ち柱の自動決定→床梁の生成→間仕切り梁の生成→束受梁の生成→火打ち梁の生成  
期入力で構造区画(ブロック)を自動生成し、バルコニーの生成

直下率と構造ブロックで無理なく、合理的な伏図作成

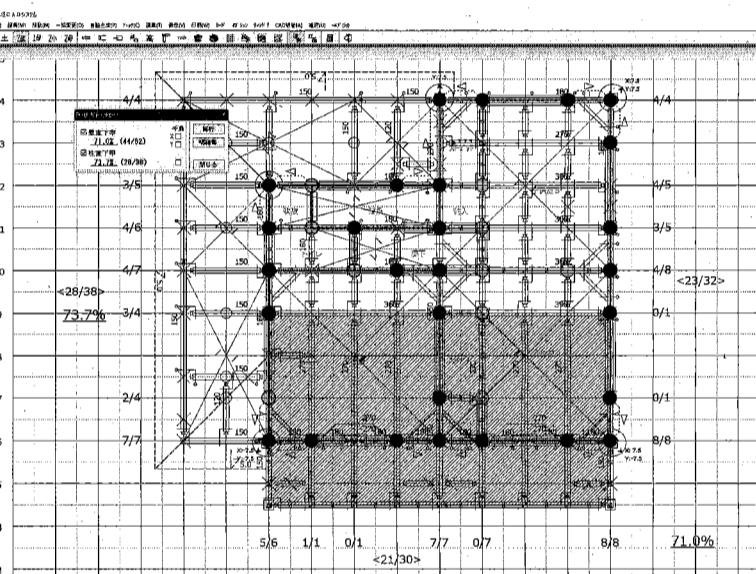
「ステップ・ナビ」は、初期入力で構造区画(ブロック)を自動生成し、バルコニーの生成

直下率と構造ブロックで無理なく、合理的な伏図作成

→間柱の生成→金物仕口の生成→梁せいの自動決定→加工生成と伏図作成を段階的にナビゲートする。

NPO法人現代木割術研究会(木割研)がまとめた「架構設計の手引き」に準拠した設計をすれば、プレカット工場のチェックも容易になり、伏図作成を格段に効率化できる」と指摘する。

## 安全で効率的な伏図作成へ



直下率チェック図。2階と1階の間仕切り線と柱の位置が一目で分かり、それぞれの一一致割合が通りごとに数字で示される

### ナビ式で設計意図を反映

「直下率計算ソフト」も開発しており、併せて活用すれば直下率という定量的な判断手法を使って1階に対応する2階の乗り方をチェックし、構造ブロックという構造部位を設定して無理なく、合理的に伏図を作成できる。

直下率とは2階と1階の壁と柱が一致する割合。割合が高いほど安全で、低くなるほど2階床の不陸が発生する危険性が高まる。木割研の事故事例の調査から導いた安全性の基準は柱の直下率が50%以上、壁の直下率が60%以上(基準を上回っても部分的に乗りが悪

い場合、その部分で事故が発生する可能性がある)。計算結果を反映したチェック図を確認すれば、荷重の流れや特別な配慮、設計変更が必要な部分の予想が可能になる。

構造ブロックは荷重の流れを検討する際の基準となる最大5P×5Pの構造単位。間取りによらず、構造ブロックを基準に梁・桁を配置することだ、無理縛りがある。この結果、構造

架構がしやすくなる。設定の際は外壁線や主要な間仕切り線で囲まれた部分を大きく数箇所に分け、鉛直荷重が構造ブロックの耐力壁線上を流れるように設置する。2階と1階の構造ブロックはなるべく重なるようにする。

スキャニングしたFAX平面図から簡単に平面図入力ができる「イーグルスピーダー」や電子化した打ち合わせシートからデータを取り込む「EZS(イージス)」を使えば、初期入力の効率化も可能だ。

ただ、「最も重要なのは、意匠設計の段階で構造を意識した設計をすることだ」と祖父江社長は指摘する。「前工程が正確なほど後工程の合理化は進む。それがバランスの良い安全な住宅づくりや伏図作成の効率化につながり、安全な住宅を安く供給できるようになる」(祖父江社長)。



**OPEN-NET Xstar  
伏図設計支援システム  
(ステップ・ナビ)  
STEP NAVI  
---2005年5月 特許出願済---**

従来までの間取り基準ではなく、経済性と強度を考慮した「構造区画」をCADが自動設計し、入力者の意図を反映しながら設計を進めていくナビゲート方式の自動伏図システム。平面図を背景画面に表示できる機能も充実。★2005年から好評発売中★

**NET EAGLE**  
ネットイーグル株式会社  
<http://www.neteagle.co.jp>

本社  
〒819-0001  
福岡市西区小戸  
3-54-50  
050-3536-5961

中部テクノセンター  
〒483-8213  
愛知県江南市古知野町  
朝日165 ナガタニビル3階  
050-3538-0221

新東京CADセンター  
〒108-0023  
東京都港区芝浦2-14-4  
オアーゼネクサス芝浦5階  
050-3533-2894